

4

市の暮らしが徐々に変わっていき

草津の昔の様子はようになっていたのでしょうか。人々の様子や願ねがいが分かる



ふるさと「矢倉」風景の記憶絵



渋川・風景の記憶絵

記憶絵は、おじいさん・おばあさんが語り部となり、50～60年前の暮らしの中で今も記憶に残る五感で感じたことを思い出し、話してもらいます。そして、目に見えない心にうかぶ光景やカタチを切り取り、絵師さんが1コマ1コマ話しかけてくるように再現して描いたものです。

1954年は草津市ができた年でもあります。絵をよく見ると、春・夏・秋・冬と

ものをさがしてみましよう。



ふるさと「草津」風景の記憶絵



ふるさと笠縫(笠縫・笠縫東学区)の記憶絵



教育研究所 🔍 検索

記憶絵を大きくして
見ることができ
るよ。

季節がうつり変わっています。また、遊んでいる子どもたちのすがたや人々のくらしの様子が細かく描かれています。それぞれの地いきの当時の様子を絵が語りかけてくれます。昔の人々の暮らしの知恵や伝統を過去から学ぶことで、草津をより知り、より好きになり、これからの未来へとつなげていってください。

ふるさと「矢倉」風景の記憶絵プロジェクト、草津記憶絵・民具継承会 河崎 凱三

1

うつり変わる市と暮らし

気づく

わたしたちの周りには、どんな古い道具が残っているでしょうか。

見方・考え方のポイント

身のまわりにある古い道具を探してみよう。

見つけた古い道具について、よく知る人に話を聞いてみよう。

道具

昔の暮らしで使っていた道具は、身近にある材料をむだなく利用し、何に使うかを考え、工夫して作られました。

また、暮らしをより良く変えようとする人々の願いとともに変わってきました。

草津市の様子や人々のくらしの様子は、どのようにうつり変わってきたのでしょうか。写真や資料を見ながら話し合ってみましょう。

身のまわりの古い道具

おばあさんの家で、見たことないもの（右の写真）を見つけました。



「これは何に使うものなの。」

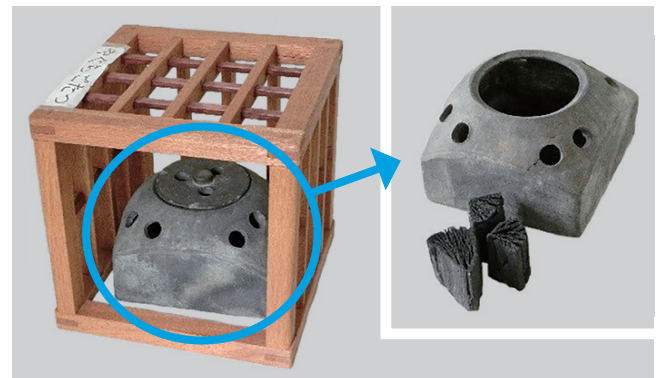


「これはね、せんたく板といって、たらいでせんたくをする時に使っていたんだよ。」

他にもいろいろな道具を見つけたので、昔の道具についてくわしく知る方に聞いてみることにしました。



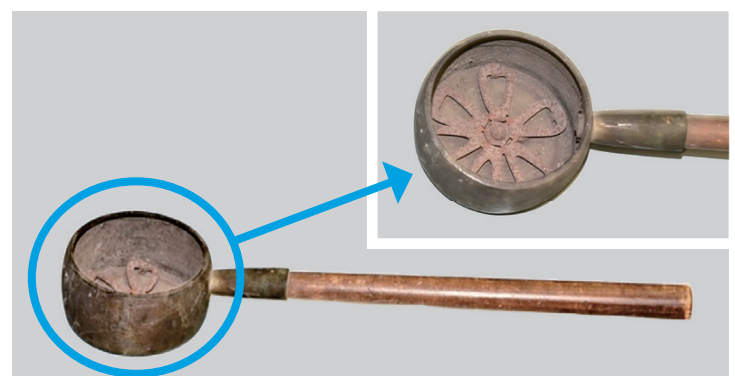
↑かま



↑やぐらこたつ



↑火ばち



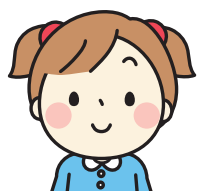
↑火のし

ふるさと玉川「民具を照らす会」山上さんの話



昔の道具には、昔の人の知恵と工夫がたくさんつまっています。たとえば、せんたく板の上の方にあるくぼみは、せっけんを置くところです。

板の真ん中にある波のもようは、表とうらでちがいます。洗う面はせっけんのあわがたまって、よごれがよく落ちるように上向きの波になっています。すすぐ面は水が流れやすいように下向きの波になっています。全て手で洗っていたので、冬はとても水が冷たくて大変な作業でした。



「せんたく板にはいろいろな工夫があるんだね。」



「他の道具にも昔の人の知恵や工夫があるのかな。調べてみたいね。」

調べていくうちに、せんたくで使う道具がだんだん変わっていることに気が付きました。



↑ローラー式洗濯機



↑二層式洗濯機



↑全自動洗濯機



「くらしの様子も今と昔ではちがうのかな？」

調べる

くらしの中でどのように使われていたか調べましょう。

昔の道具見学カード(例)



見てくること

- ・道具の形、色、大きさ、さわった感じ
- ・どんな材料が使われているか

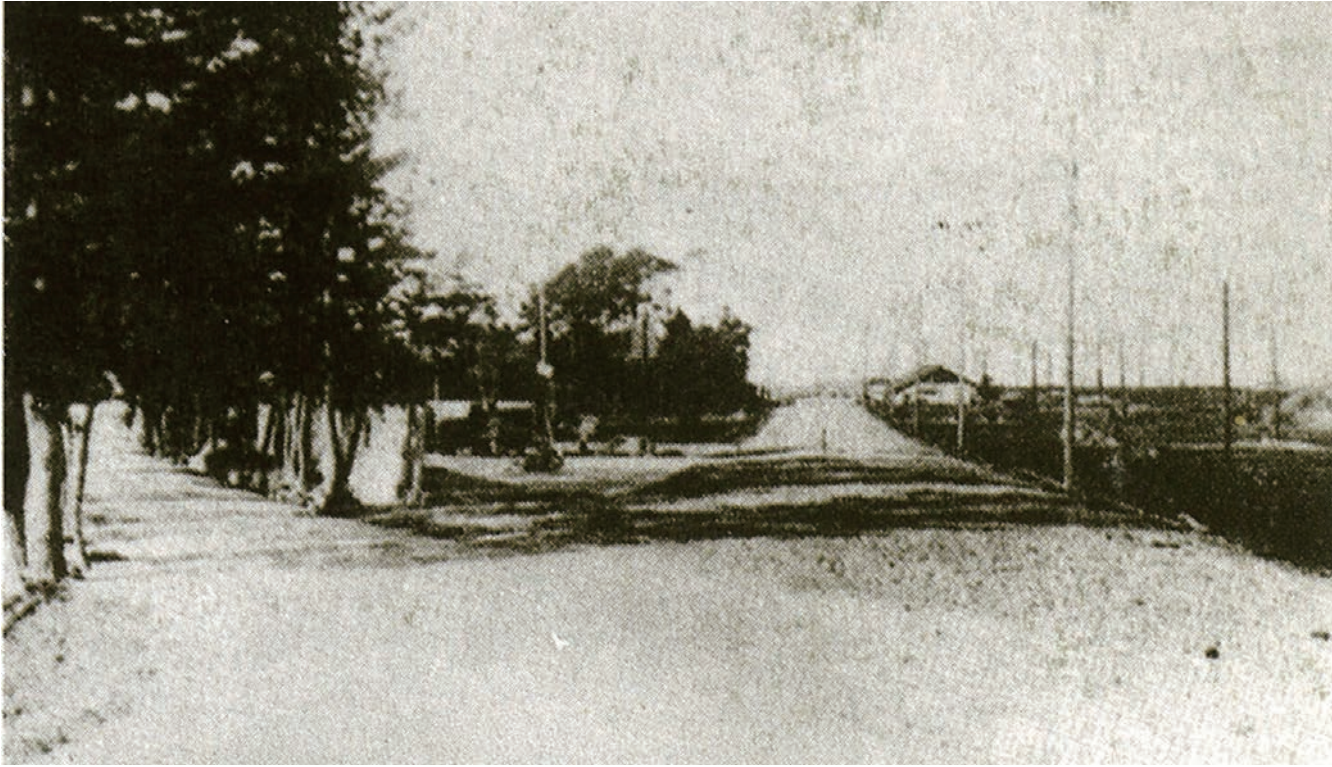
聞いてくること

- ・道具の名前
- ・いつごろ使われた道具か。
- ・どんなことに使うのか。

昔の道具

検索

いろいろな昔の道具がのっているよ。



↑1935(昭和10)年ごろの様子



↑1963(昭和38)年ごろの様子

気づく

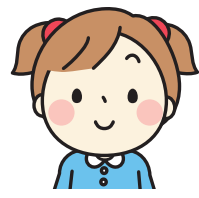
草津市は昔, どのようなまちだったのでしょうか。

見方・考え方のポイント

昔の暮らしと今の暮らしのちがいについて考えよう。

昔のくらしから今のくらしへ

上の写真は, 草津市の国道1号線を同じ場所から撮影した様子です。



「昔は, あまり車が通っていませんでしたね。」



「お店の様子も, 今とずいぶんちがうね。」

そこで, 昔の暮らしと今の暮らしのちがいについて考えてみました。



絵を見て見つけたものや今の暮らしとのちがいについて話し合おう。

教育研究所

検索

p.43の記憶絵の中にもあるよ。





↑現在の様子

ちいき けいしゅう かわさき
矢倉地域文化継承プロジェクト 河崎さんの話



私は、小学校で子どもたちと学習するとき、「めぐみ・きずな・つなぐ」という言葉を、いつも伝えています。私たち人間は、自然や命のめぐみをいただきながら生きています。また、昔から人々は助け合い、協力し合って生活してきました。人と地域のきずなを大切にしてきたのです。そして、生活のために、より便利な道具が作られ、大切にしてきました。この思いや生き方を次の世代へつないでいく必要があります。

時代はこれからも変化していきます。しかし、めぐみに感謝すること、人とのきずなを育むこと、そしてくらしの知恵や工夫を、これからの未来を生きる子どもたちへつないでいき、子どもたちが草津を「自分のふるさと」と言えるように、これからも活動したいです。

調べる

昔のくらしはどんな様子だったのかを調べましょう。



教育研究所

🔍 検索

くらしの様子がたくさん
 っているよ。

🔍 見方・考え方のポイント

人々のくらしはどのように
 変わってきたのだろう。

表現する

教科書を参考にして、道具とくらしのうつり
 変わりを年表などにまとめましょう。



まとめたものを発表し合い、分かったことや考えたことを話し合おう。